

平成 29 年度環境省事業経過報告(捕獲事業)

1. エゾシカ個体数調整捕獲(達古武地区)

達古武地域では、平成 25 年度以降 4 カ年にわたり試験捕獲と個体数調整捕獲を実施してきた。今年度も大型囲いワナおよび小型囲いワナによる個体数調整捕獲を実施する。

※図 1-1 に今年度のワナ設置箇所を示す。



図 1-1 達古武地域における囲いワナ配置図

(1) 大型囲いワナ

設置場所：自然再生事業苗畑周辺（平成 27、平成 28 と同位置）

経過：1月 24 日までの誘引状況を表 1-1 および図 1-2 に示す。昨年度、一昨年度のワナ設置後の様子と比較して、ワナ周辺で確認されるシカの群れサイズが小さくなる傾向がみられる。

表 1-1 誘引状況と作業の概況

日付	作業内容・誘引状況
12/15	誘引開始
1/9-1/11	大型囲いワナ設置作業
1/13	ワナ内にエサ箱設置
1/17	オス、メス 1 頭ずつがワナ内に入り採食
1/22	ワナ内に最大 3 頭が侵入
2/8	継続的にシカがワナ内に入り 作業扉を閉鎖

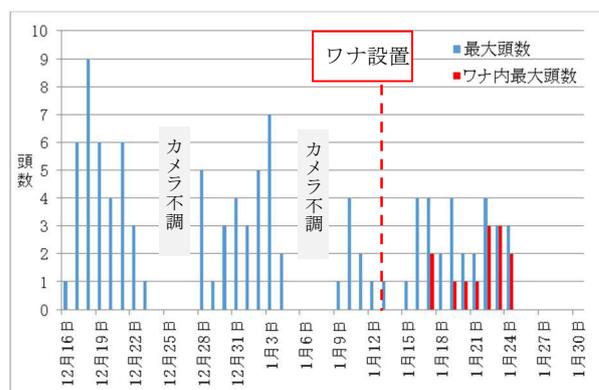


図 1-2 ワナ内外の頭数推移グラフ

今後の予定：引き続き誘引と自動カメラでの行動把握を継続。4頭以上ワナ内にエゾシカが入ったことを確認した後、ワナ外のエゾシカの状況を見ながら捕獲を実施予定。

(2) 小型囲いワナ(体重計測式ワナ)

設置場所：自然再生事業地の東ノ沢尾根上に1基設置（平成28と同位置）

経過：昨年度はワナ設置後5日間程エゾシカが近よらない期間があったが、今年度は設置日の夜からワナの入り口の前で4-5頭の群れが撮影された。（表1-2、図1-3）

表 1-2 誘引状況と作業の概況

日付	作業内容・誘引状況
12/15	候補地選定・誘引開始
12/22	小型囲いワナ設置箇所の決定
12/25	ワナ設置箇所のみで誘引継続
1/15-1/16	小型囲いワナ設置、周辺で誘引
1/22	ワナ内に餌を設置
1/26	ワナ内入口の餌が食べられる
2/8	ワナ内に2頭のシカが侵入

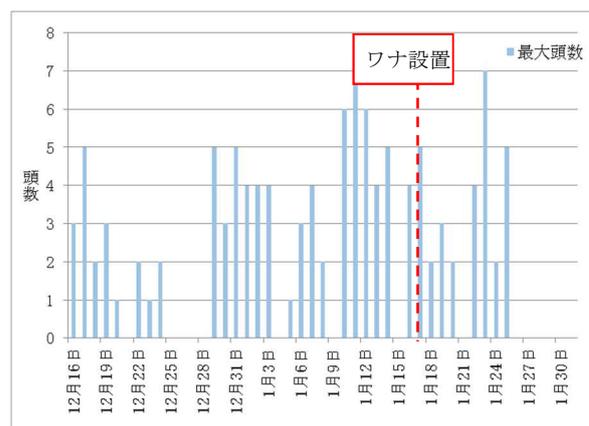


図 1-3 ワナ内外の頭数推移グラフ

今後の予定：引き続き誘引とカメラによる行動把握を継続。ワナ内での餌付き具合や性別、年齢をみながら、扉が落下する設定体重を調整し捕獲を実施予定。

2. 道道 1060 号線沿線における捕獲可能性の検討

道道 1060 号線はエゾシカが高密度に観察される場所ではあるが、生活道路や公園利用道路として利用されている道路であり、釧路川では周年カヌーや釣りが行われていることから、公園利用者等との軋轢を生じず安全に実施可能な捕獲手法を検討する。

※図 2-1 に捕獲手法を検討するための捕獲候補地を示す。



図 2-1 道道 1060 号線周辺における給餌試験箇所

(1) エゾシカの日周行動の解析

環境研究総合推進費事業「釧路湿原にて超高密度状態となったシカの管理を成功させる戦略と戦術」で装着された GPS 首輪データを用い、冬季のエゾシカの日周行動を解析し、捕獲に適した期間及び時間帯等を検討する。

・解析結果 (図 2-2~5)

湿原内を南北に広く利用し湿原核心部を利用する個体がみられた。

昼間 (9 時から 15 時まで) に道路際に出る傾向がみられた。

道道付近の行動圏をみると、釧路川と道道の交わるあたりに最も重複がみられた。

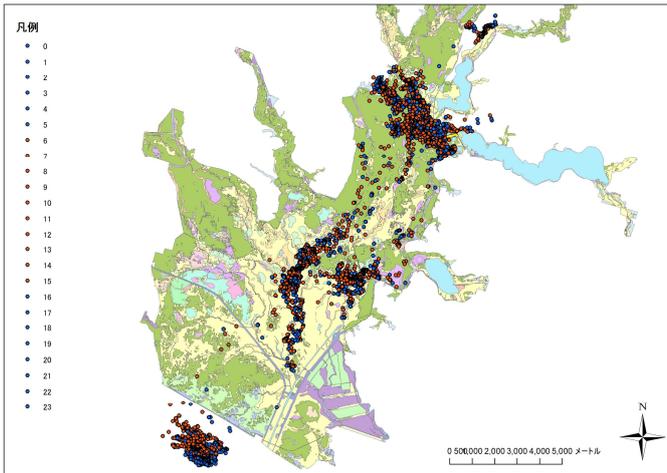


図 2-2 1-3 月の昼夜別ポイントデータ

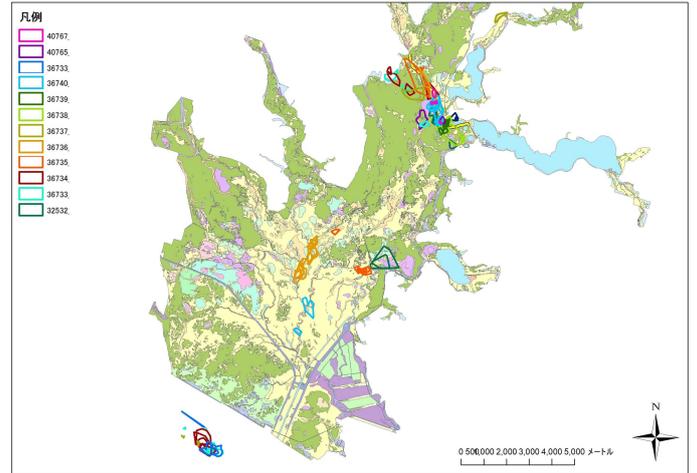


図 2-3 1-3 月の行動圏 (a-locoh 50%で算出)

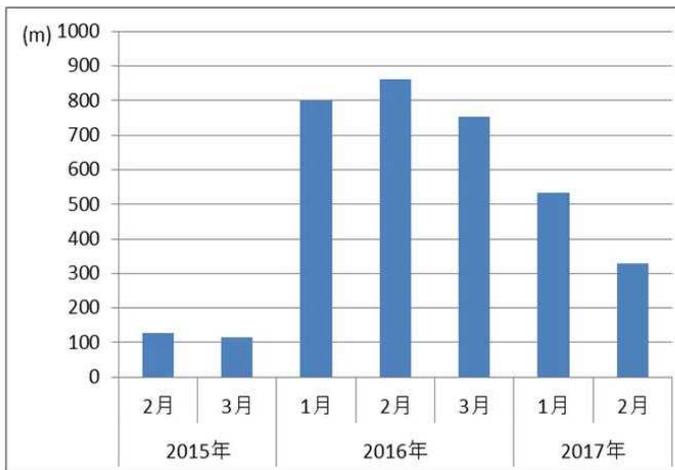


図 2-4 行動圏の重心と道路からの距離の月別比較

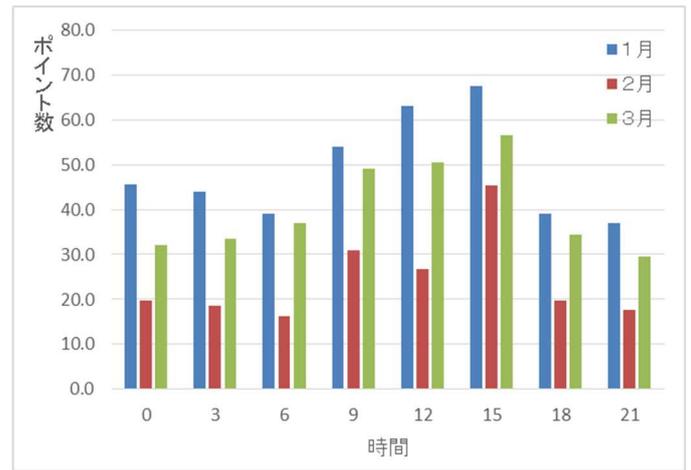


図 2-5 道路から 100m バッファ内のポイント数

(2) 流し猟式シャープシューティングのシミュレーション

ロードセンサスを実施し、エゾシカの出没状況及び人の利用状況を調査する。

実施日：1/12、1/25、2/13（予定）、3/6（予定）、3/20（予定）

実施時間：日の出直後、9時、11時30分、14時、日没前の5回

実施結果：

- ・昨年度は2/18～3/1の期間に5回実施。
- ・今年度観察された個体数は昨年度調査と同様かやや少ない。
- ・昨年度の調査では日の出直後は出没頭数が少ない傾向があったが、今年1/12は日没前に5頭、それ以外の時間帯では30頭前後が観察された。今年1/25は日の出直後と日没前に観察頭数が多くなる傾向がみられた。

(3) ハイシートを用いた銃器による捕獲可能性の検討

平成28年度業務では、極力道路や釧路川から離れ、土地所有者が特定でき、協力が得られる見込みがある場所であることを条件とし、捕獲候補地を3カ所選定した（図2-1 候補地1,2,6）。

このうち1カ所（候補地2）については公園利用者（釣り）が撮影されたため、今年度再度踏査を実施し、選定しなおした。

1月13日から3月上旬の期間に誘引試験を実施。餌の減り具合を見ながら随時給餌するとともに自動撮影カメラを設置して誘引状況のモニタリングを実施。

誘引されたエゾシカの頭数および時間を整理し、捕獲可能性を検討するとともに実施に適した時期も検討する。

(4) 小型囲いワナによる捕獲可能性の検討

平成28年度事業では、公園利用者等が接近する可能性が少なく、土地所有者が特定でき協力が得られる見込みがある場所であることを条件に、ワナ・ハイシートによる捕獲候補地を5カ所選定した。

今年度はこの5カ所から、ハイシートの実施を想定した捕獲候補地2カ所（候補地3,4）を除いた3カ所の捕獲候補地において、わな実施を想定し給餌を行う（図2-1）。

1月13日から3月上旬の期間に誘引試験を実施。餌の減り具合を見ながら随時給餌するとともに自動撮影カメラを設置して誘引状況のモニタリングを実施。

誘引されたエゾシカの頭数および時間を整理し、捕獲可能性を検討するとともに実施に適した時期も検討する。

(5) 見通しのよい場所からの直接観察調査

サルボ展望台から直接観察を行うことで、GPS首輪のデータを補完、道道周辺の群れの動きを把握して道路からのセンサスおよび捕獲可能性検討の材料とする。調査は2月7日、3月7日の2回実施、日の出直後から日没直前までの間、1時間おきに群れ頭数と位置、動いている場合は動きの方向を記録する。

3. 釧路川右岸堤防における捕獲手法検討

釧路川右岸堤防は、湿原中心部に生息するシカの捕獲を考える上で重要な地域であるが、堤防施設管理者等や徒歩による公園利用、また周辺にはサケマス孵化場やビジターセンターの施設があるため、対策には配慮が必要となる。本調査では、堤防周辺において、流し猟式シャープシューティング、囲いワナによる捕獲手法について社会的状況に配慮しつつ検討を行う。

※図 3-1 に捕獲手法検討のための候補地（今年度は給餌を実施）を示す。

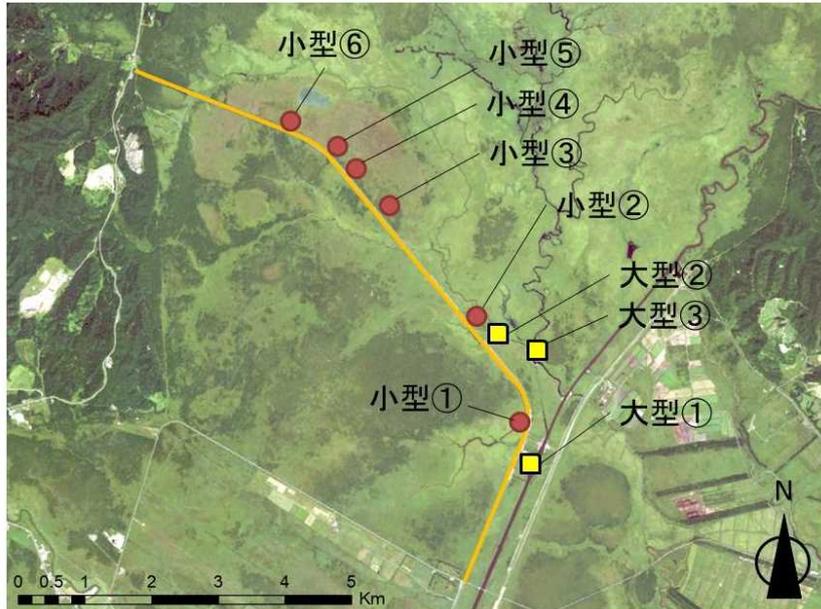


図 3-1 釧路川右岸堤防における給餌試験箇所

(1) エゾシカの日周行動の解析

環境研究総合推進費事業「釧路湿原にて超高密度状態となったシカの管理を成功させる戦略と戦術」で装着された GPS 首輪データを用い、冬季のエゾシカの日周行動を解析し、捕獲に適した場所、期間及び時間帯を検討する。

・解析結果(図 3-2~5)

右岸堤防南側（堤防道路カーブ）と北側（赤沼側）の二つの集中域があり、双方での個体の行き来はみられなかった。

道路から 100m 以内の GPS ポイント数は夜間に多い傾向がみられた。

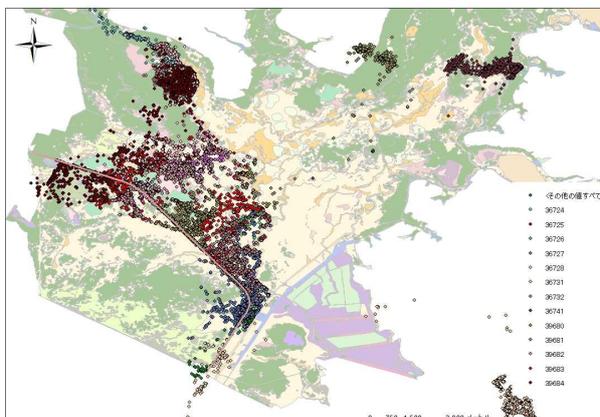


図 3-2 1-3 月の GPS ポイント

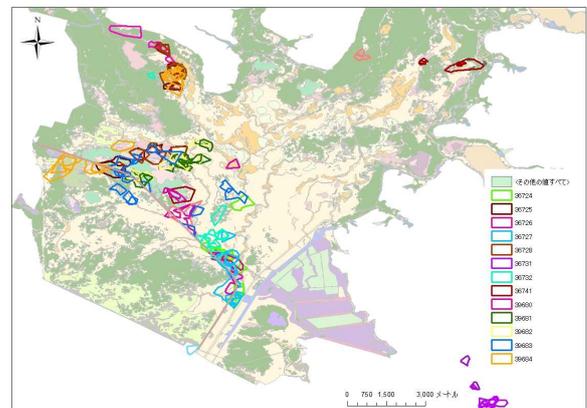


図 3-3 1-3 月の行動圏 (α-locoh 50%で算出)

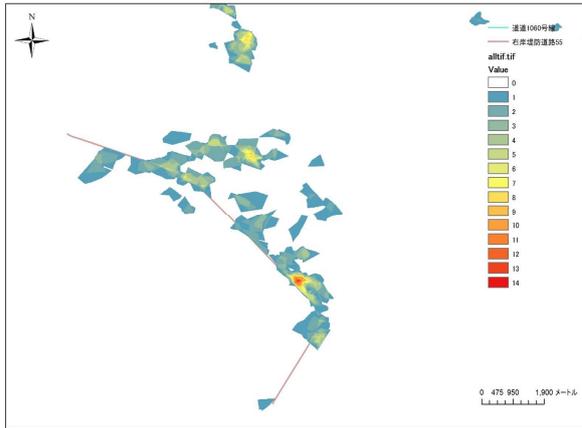


図 3-4 1-3月の50%行動圏の重複

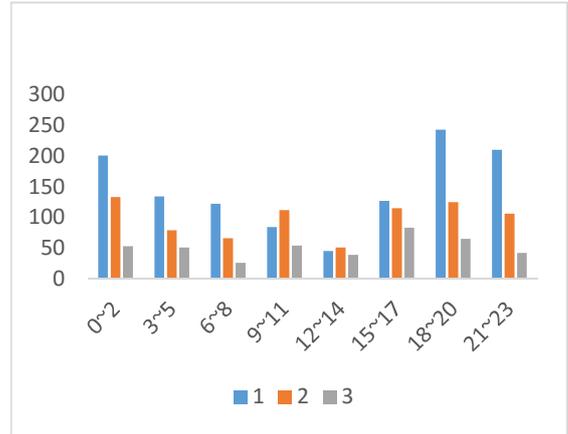


図 3-5 道路から 100m 以内の GPS ポイント数

(2) 囲いわな(大型囲いわなおよび体重計測式ワナ)による捕獲可能性の検討

大型囲いわな及び小型囲いわなの設置候補地を選定。

→ワナの設置条件は以下表 3-1 の通り。

冬期間に給餌試験を実施して捕獲可能性を検討。

→給餌は 1/13 より開始しており (図 3-1 参照)、3月上旬まで実施の予定。

表 3-1 囲いわなの設置条件

種類	設置に必要な条件
大型囲いわな	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50m×50m 程度の広い場所が必要 ・ 資材および捕獲個体搬出入のため、2t トラック以上の車両がアクセスできること ・ エゾシカの群れサイズが大きいこと
小型囲いわな	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7m 四方程度の平坦な場所が必要
両ワナ共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園利用者等や堤防施設管理者が接近する可能性の低い場所 ・ 個体の回収が容易に行うことができる場所

(3) 流し猟式シャープシューティングのシミュレーション

ロードセンサスを実施して、エゾシカ出没状況及び人の利用状況を調査する

実施日：1/13、1/23、2/15、3/5 (予定)、3/19 (予定)

実施時間：日の出直後、9時、11時30分、13時30分、日没90分前の5回
 推進費事業で行われた射撃適地の抽出結果を参考に射撃範囲を検討。